



眉山のふもとで
毎日のくらしと
名もないドラマが
歴史を作る

私たちはこれからの未来に
どんなドラマを残すのだろうか

私たちは今、
歴史から続いた一筋の道の上

あしたという未来のふもと

ふもと研究会

研究員のふもと巡り

持明院—その①—

持明院は、天正年間(1573—1591)に、板野郡勝瑞村の持明院と、名西郡入田村の建治寺を移転、合併して眉山東麓に位置する大滝山に建設されました。文化8年(1811)の『阿波名所図会』や、天保7年(1836)の松浦武四郎『四国遍路道中雑誌』にも、持明院の全容が記載されています。そこには、山の名前の由来ともなった見事な滝をベストロケーションとして抱え、持明院のシンボルともいえる、朱塗りの三重塔、観音堂、薬師堂、太子堂など、数多くの仏教建造物だけではなく、料亭、茶屋等々、様々な建築物が立ち並ぶ、繁栄の地「阿波国」の象徴ともいえる様子が見て取れます。『四国遍路道中雑誌』で松浦武四郎は、“如何にもかる繁華の地ニかる名瀑のあること不思議とやいわん。”と、建築物の見事さ、眺望の素晴らしさ、そして大滝山そのものへの賛辞を呈しています。



研究員光永

『阿波名所図絵』文化8年(1811)





情報の巣箱より

わたしと麓 ふもと

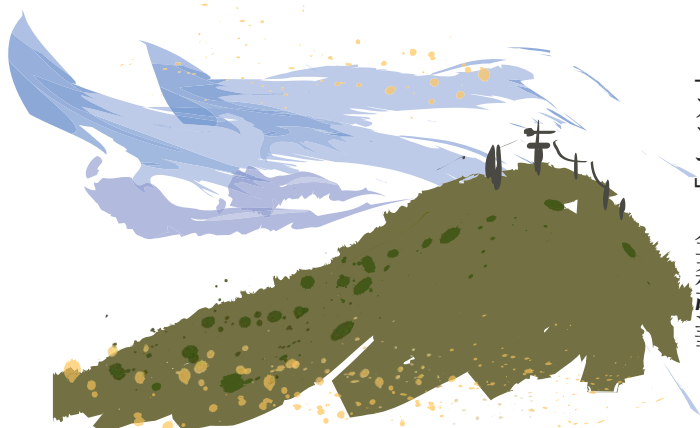
vol. 08

子供が少し成長して：
 母親業から少し離れ、
 仕事を始めた。素人のお
 商売で趣味の様なものだ
 た。三年でダメかな、私に
 は向いてないかな、と思案
 している時、人との出会に
 助けられた。素晴らしいア
 ドバイザーに出会い、素直
 な気持ちでもう一度挑戦
 してみようと、教わる通り
 に実行した。

丁度ブームに乗ったこと
 もあって、順調に仕事を掴
 んでいった。会議の為、出張
 コンベンションの為と、県外
 や、海外に出かけることも
 多くなった。松茂空港（現
 在は阿波踊り空港にリニ
 ュアル）から徳島市内に
 入る吉野川大橋にかかる
 と、眉のごと雲井に見ゆ
 る阿波の山―と歌われた
 眉山全景が見え始める。
 その姿を見ると「帰って

きたーつ」とホットしたもの
 だった。
 ゆったりと流れる川面と
 なだらかな眉山の稜線。徳
 島で育った者だからこそ感
 じる、緊張から心を解きほ
 ぐしてくれる故郷への第一
 歩である。

アロマテラピースクール
 「カラザ」 金森弘華



学生支援室だより

No8

以前こちらで紹介しました『恋のうた学習会』が5月21日（金）に最終回を迎えました。非常に残念ではありますが、司会進行役、この学習会の主催者である総合科学部の学生さんは既に4年生…。就職、勉強と忙しい時期になり、継続が難しくなったためです。会の終わりを惜しみつつも、参加者の方々は温かく彼を送り出し、彼の方も“学生時代の本当にいい思い出になった。どの学習会にも負けない大変素晴らしい会になり、誇りに思っている”と晴れやかな表情でした。

今回は特別に、最終回ということで、『人気うた投票』の結果発表が行われました。これまで詠んできたうたの中から、予め好きなうたを選んでいただき、それらを集計したものです。そして、最後に…主催者の学生さんから参加して下さったみなさまにプレゼント…『恋のうた詠み会』においてご自分で詠まれたうたと、それぞれのお気に入りの一首を葉にしたもの。それから、みなさまへのお手紙。封筒から出てきたこれらの贈り物に、参加者のみなさまからは思わず笑顔がこぼれました。

みなさまに愛された学習会の最終回。最後に“みなさんで集合写真を撮りましょう”との呼び掛けに、“そうね！同級生ですものね！”と弾む笑顔。同級生一同じクラス（学習会）で学んだ仲間―その言葉の持つはつらつとした響きにはっとしました。いくつになっても学べる、世代を超えて一緒に学べる、そんなことに改めて気付かされるきっかけになりました。

全14回に渡り協力して下さった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました!!



学生支援室 Tel:088-656-7205

HP :<http://w3.ias.tokushima-u.ac.jp/sgp>